新支部長に橋口氏

県森林土木協会加治木支部総会

橋口一二三新支部長

県森林土木協会加治木支部（末重忠義支部長）は8日、姶良郡加治木町の姶良郡建設会館で16年度通常総会を開き、新年度事業計画等を承認したほか、任期満了に伴う役員改選では新支部長に橋口一二三氏（㈱橋口組）を選出した。

総会の冒頭、末重支部長は「予算削減、事業量減少等、厳しい環境にあるが、会員一同、努力を重ねて乗り切っていこう」と挨拶。塚田洋一氏（㈱川原建設）を議長に、議事に入った。

議案審議では、15年度事業報告並びに収支決算、16年度事業計画案並びに収支予算案をすべて執行部原案通り可決承認。任期満了に伴う役員改選では、新支部長に橋口氏が選出された。

橋口新支部長は「歴史ある協会の大先輩が築かれた物を守りつつ、会員の皆さまのご協力を得ながら運営していきたい」と抱負を語り、また末重支部長も「長年協会支部長として微力を尽くしてきたが、今後は他の面で協力していきたい」と挨拶。末重支部長と、ともに勇退する渕脇利文理事に対し、会員から大きな拍手が贈られた。

また総会終了後は、来賓の宝蔵虎雄加治木農林事務所事務所長が「森林土木協会員として蓄積された技術を生かし、会員ならではの優れた仕事ぶりを世に広め、存在価値をさらに高めていただきたい」と祝辞を寄せ、続いて松山龍治森林土木課長が今後の事業計画等について説明した。

新年度事業計画は、①森林土木技術研修会の開催②安全パトロールの実施③加治木・大口合同労働安全研修会の開催―等となっている。

新役員は次の通り。

努力で乗り切ろう――と挨拶する末重支部長
＝加治木町の姶良郡建設会館で

支部長＝橋口一二三▽理事＝山口克典（ヤマグチ㈱）佐々木邦廣（㈱佐々木組）

県林務水産部長に就任した

諏訪 弘美 さん

かお…人

林業・水産業従事者の減少や高齢化、担い手育成、木材等の単価の低迷など、数多くの課題を抱えた状況での就任に、「県の林業と水産業の振興に最大限努力していきたい」と抱負を語る。

これからの林業は、「森林整備や間伐材等の活用を推進し、活性化を図ることが必要」。また水産業は、「適正な漁獲、計画的な養殖等のもと、消費者を意識した流通や販売の推進が重要である」と展望する。

公共事業についても、林業・水産業の活性化を図るためには基盤整備は必要不可欠であるとし、「事業の峻別・重点化を図りながら執行したい」と語る。

大口市出身。昭和45年、鹿児島大学法文学部を卒業後、入庁。これまでに川内総務事務所長、林務水産部次長、保健福祉部次長などを歴任している。最近の出来事では、新幹線開業を挙げ、「昭和58年の企画部時代、ルートが発表された頃、業務に携わったことが強く印象に残っている」と感慨深げに話す。

趣味は、生活習慣病対策として始めたというウオーキング。今では健康管理のために欠かせないとか。モットーは、〝役人は県民のために〟。「何事にも柔軟な発想でいきたいですね」。

鹿児島市吉野町に夫人、1男と3人暮らし。56歳。

（鹿島邦友・報道部主任）

林・水産業の振興に努力

県建設業協会指宿支部 安全管理研修会

労働・交通災害撲滅へ

安全管理意識の高揚を図った研修会
＝指宿市のなのはな館で

県建設業協会指宿支部（小牟礼純哉支部長）は8日、指宿市のふれあいプラザなのはな館で16年度安全管理研修会を開き、鹿児島労働基準監督署をはじめ各講師を招いて、安全講話や支部会員からの体験談発表を実施、労働災害・交通災害の撲滅に向けて、安全意識の高揚を図った。

講習会は、7月の全国安全週間に先立ち、災害が多発する夏場を目前に労働災害・交通災害等の発生防止と支部会員らの安全意識の高揚を図ることを目的に毎年実施されている。今回は、鹿児島労働基準監督署の勝田清人産業安全専門官らを講師に招いて行われた。

冒頭、「絶体絶命650人決死の脱出劇」という、8・6水害を題材にしたビデオ上映の後、新村三男労務委員長の開会の挨拶に続いて、小牟礼支部長が「今日の研修会で得たものを各社でしっかり吟味していただき、職場の安全管理意識の高揚を図り、現場での実践に生かしていただきたい」と挨拶。

続いて、鹿児島労働基準監督署の勝田産業安全専門官と、鹿児島地域産業保健センターでコーディネーターを務める茂幾留果氏による安全講話が行われた。

このあと、指宿警察署、同消防署による交通安全と危険物取り扱いに関する講話と、㈱出口組の川路長広氏、永吉建設㈱の田畑耕次氏による現場体験談の発表があり、出席者らは各自の立場に置き換え、真剣に聴講していた。

県設備関連協議会

理事16人、監事2人選出

県電設協会、県管工事業協会、県空調衛生工事業協会、県設備設計事務所協会の4団体で構成する県設備関連協議会（山ノ内文治会長）は7日、理事会を開き、代議員及び理事を決めた。

去る5月31日に開かれた総会において、新会長に山ノ内氏（㈱明興テクノス）を選出しており、今回の理事会では理事16人、監事2人、代議員22人を決定した。

新役員は次の通り。

会長＝山ノ内文治▽副会長＝篤俊治（㈱親和電機）肥後勝司（中央工業㈱）安田雄昭（県空調衛生工事業協会長）小島眞史（㈱ナック）▽理事＝畠田実（㈱南電工）澤田忠男（㈱沢田電設）濱田英俊（㈱大成電設）三浦哲男（㈱大鹿電業）前田吉伸（南栄電機㈱）稲留澄男（丸山工業㈱）永野誠二（三元設備工業㈱）川畑宏二（旭工業㈱）山之内成博（錦江設備工業㈱）田中良邦（相洸水道㈱）若山悍（㈱鹿児島設備連合設計）▽監事＝安楽勉（安楽電気㈱）高吉和生（宝地建設㈱）

急傾斜地崩壊危険個所点検

59カ所、住民意識調査も

砂防ボランティア協会

記念撮影に納まる参加者
＝鹿児島市の護国神社で

公共土木施設の整備や管理等に長年携わってきた経験をもつ県土木部OBでつくる、鹿児島砂防ボランティア協会（稲田博会長）は8日、16年度第1回の急傾斜地崩壊危険個所調査点検のボランティア活動を実施。鹿児島市内の59カ所で88人（22班）が参加し、法面部分などの現状確認のほか、地域住民の防災意識の調査等を行った。

同日は、鹿児島市の護国神社に集合し出発式を実施。稲田会長が「皆さんと元気で会えるのも楽しみの一つです。あいにくの天気ですが、けがのないよう元気に活動していただきたい」などと挨拶。参加者全員で記念撮影した後、各班ごとに車に分乗して、下竜尾や竜ケ水、西田、谷山地区などそれぞれ担当の現地に向かった。

鹿児島市下竜尾町では、稲田会長や羽田忠彦事務局長らが住宅を1軒ずつ訪問し「危険を感じたことはないですか」「避難場所は知っていますか」など防災に対する意識を聞き取り調査したほか、施設点検表に基づき法面部分のモルタルはく離や劣化はないか等の調査を実施した。また、同ボランティアの調査結果、診断結果は県砂防課に報告される。

地方が創る道路事業制度検討会

あす、東京で開催

国土交通省は、地方の道路整備事業に関する各種制度をより使いやすいものにするため、事業に精通している地方公共団体と議論する「地方が創る道路事業制度」の第1回検討会を10日午後1時から、東京都の中央合同庁舎で開催する。

同省では、検討会への参加で、制度改善への提案を募集したところ、91人から延べ174件の意見が寄せられ、改善案の中から斬新な提案を選出し、検討会のメンバー30人を決定。

このうち、本県関係で福森幹夫鹿児島市街路整備課長が、「用地補償費及びレール・架線等への補助拡大」を改善テーマに掲げメンバーに選出された。